



講師

宮田 一弘

茨城県立医療大学

司会：佐藤 剛介（奈良県総合医療センター）

要旨

神経疾患において理学療法を実践する上で、対象者の状態や能力の把握、予後予測、介入効果判定は重要であり、それらには評価尺度が用いられる。この評価尺度に関連する研究の目的は、科学的に適切な手法で現象の数量化を目指すことである。具体的には、尺度の妥当性、信頼性、反応性、解釈可能性などの尺度特性を検証する。

本講演では、尺度研究の概要を説明した上で、我々の行ってきた妥当性や信頼性を検討した事例を紹介することで、神経理学療法領域における尺度研究の発展に寄与できるような話題を提供したい。

略歴

2009 年 茨城県立医療大学保健医療学部 理学療法学科 卒業

医療法人社団日高会 日高リハビリテーション病院・日高病院

2014 年 群馬大学大学院保健学研究科 博士前期課程 修了(保健学)

2017 年 茨城県立医療大学保健医療学部 理学療法学科 助教(現在に至る)

2019 年 群馬大学大学院保健学研究科 博士後期課程 修了(保健学)

<学会活動>

日本神経理学療法学会評議員・研究推進委員・学術誌編集委員

BMC Geriatrics, Editorial Board Member

業績

1. Miyata K, Kondo Y, Bando K, et al. Structural Validity of the Mini-Balance Evaluation Systems Test in Individuals With Spinocerebellar Ataxia: A Rasch Analysis Study. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation 2024; 105(4): 742-749.
2. Miyata K, Hasegawa S, Iwamoto H, et al. Rasch Validation and Comparison of the Mini-BESTest and S-BESTest in Individuals With Stroke. Physical Therapy 2022; 102(4): pzab295.
(他 40 編)